

東映デジタルセンター イメージを形にするポストプロスタジオ



東映株式会社
デジタルセンター
Tel: 03-3867-5010

世界初

ドルビーアトモスのためにゼロから設計されたダビングステージDub1



「生の音」の質感まで聴きとることを求めた音響空間



©2019映画「轢き逃げ」製作委員会

東映デジタルセンターでダビングが行われたドルビーアトモス作品

■『轢き逃げ - 最高の最悪な日 -』水谷豊監督
※日本映画初のドルビーシネマ作品
2019年5月10日公開

日本初のドルビーアトモス対応ダビングステージとして2013年に誕生したDub1。その稼働以来、国内外の数多くのDolby Atmos作品の製作をお客様と共に積み重ねてきました。現在ではアトモスマックスの技術を持った整音技師も複数在籍しています。今後も変化する映像製作業界のご要望にお応えすることを目指しスタッフ、施設共に進化をします。



ダビングステージ1(Dub1)

- コンソール:AVID System 5 Hybrid (72Faders)
- DAW:AVID, ProTools HDX2 ×5
- オーディオプロセッサー:Lake LM26/Dolby RMU
- スピーカー:Toei Original

ダビングステージ2 (Dub2) リニューアル

AVID S6コンソール導入

ダビングステージ2(Dub2)は旧仕上げセンターから約19年に渡り数々の作品のミックスを皆様と共に行ってきたAMS Neve DFCコンソールを入れ替え、2019年12月にリニューアルオープンしました。

新たに導入されたAVID S6は業界標準のソフトウェアであるProToolsをコントロールするために開発されたコントロール・サーフェスで、波形表示等様々な機能によってより直観的に作業することが可能になります。



ダビングステージ2 (Dub2)

- コンソール:AVID S6 (56 Faders) with MTRX
- DAW:AVID, ProTools HDX2 ×5
- スピーカー:JBL 4670D

音響効果部門を発足

SOUND EDIT も2室増設

モノ創り中心の事業展開を行いたいという思いから、2019年2月に東映デジタルセンターでは音響効果チームを立ち上げました。映画やテレビ放送作品に限らず、スマホアプリやウェブドラマ等の音響効果も手掛けます。

さらに効果音編集を主たる目的としたフォーリー併設タイプを含む2室のSOUND EDITを同年に新設し、サウンド編集室11室体制に音響製作環境が拡充されました。



SOUND EDIT8



フェイシャルキャプチャ&アフレコ同時収録

東映デジタルセンターではツークン研究所と共同で、声の収録と同時にアクターの表情を撮影する「フェイシャルキャプチャ&アフレコ同時収録サービス」を実施しています。アフレコ時の表情をCGキャラクターへ流し込むことで、画と声の演技がシンクロしたより自然な作品表現が期待できます。

アクセス

東京都練馬区東大泉2-34-5 東映東京撮影所内



ADR3
収容人数30名、天井高約4.5m



シアター
座席125席 車椅子席2席
ライトテーブル席10席



MA1
測定不能なNC値を誇る5.1ch対応
MAスタジオ。



オフライン編集室
全14室(写真はEDIT6~13)

TOEI DIGITAL CENTER
東映デジタルセンター



入口から出口までポストプロダクションのすべてをお任せください。

■お問合せ

TEL: 03-3867-5010

東映株式会社 デジタルセンター ポスプロ事業部